

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課: 道路局 国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

| | | | | | |
|-----|--|------|-------|------|-----------------|
| 事業名 | ひだか 日高自動車道(一般国道235号) しづないみついし 静内三石道路(静内～東静内) ひがいしすない | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 国土交通省 北海道開発局 |
| 起終点 | 自: 北海道日高郡新ひだか町静内神森 至: 北海道日高郡新ひだか町東静内 | 延長 | 8.0km | | |

事業概要

日高自動車道は、苫小牧市を起点とし、浦河町に至る高規格道路である。

静内三石道路(静内～東静内)は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び国際拠点港湾苫小牧港、拠点空港新千歳空港等への物流効率化等の支援を目的とした延長8.0kmの事業である。

| R4年度事業化 | 一 | R6年度用地補償着手 | 工事未着手 |
|---------|--------|----------------------|-----------------|
| 全体事業費 | 約520億円 | 事業進捗率 (令和7年3月末時点) | 約3% 供用済延長 0.0km |

計画交通量 7,700台／日

| 費用対効果分析 | B/C (事業全体) | EIRR (事業全体) | 総費用 (残事業)/(事業全体) | 総便益 (残事業)/(事業全体) | 基準年 令和7年 |
|---------|---|----------------------|--|---|-------------------|
| | 1.2 (1.1) (参考) 1.6 (1.6) [2%] (参考) 1.8 (2.0) [1%] | 5.0% (4.4%) (残事業) | 895/8,732億円 事業費: 813/8,015億円 維持管理費: 77/ 553億円 更新費: 4.8/ 165億円 | 1,871/10,770億円 走行時間短縮便益: 1,628/9,272億円 走行経費減少便益: 204/1,187億円 交通事故減少便益: 40/ 310億円 | |
| 分析 | 感度分析 | (事業全体) | | (残事業) | |
| | | 交通量 | B/C=1.1～1.4(±10%) | 交通量 | B/C=1.8～2.4(±10%) |
| | | 事業費 | B/C=1.2～1.2(±10%) | 事業費 | B/C=1.9～2.3(±10%) |
| | | 事業期間 | B/C=1.2～1.2(±20%) | 事業期間 | B/C=2.0～2.2(±20%) |

事業の効果等

事業の必要性及び効果

- ① 畜産品の流通利便性向上
 - ・速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、畜産品の流通利便性向上が期待される。
- ② 農産品の流通利便性向上
 - ・物流拠点への速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、農産品の流通利便性向上が期待される。
- ③ 緊急輸送ルートの強化による迅速な道路啓開の支援
 - ・津波浸水想定区域を回避するルートが確保されるなど、災害時の緊急輸送ルートが強化され、迅速な道路啓開の支援が期待される。
- ④ 救急搬送の速達性・安定性向上
 - ・並行する国道235号の信号交差点を回避し、高次医療施設までの所要時間が短縮され、救急搬送の速達性・安定性向上が期待される。
- ⑤ 移住・交流人口の拡大による地域活性化
 - ・速達性の高い道路ネットワークが確保されることで、移住・交流人口が拡大し、地域活性化の支援が期待される。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等:

浦河町など1市11町の首長等で構成される「高規格道路日高自動車道早期建設促進期成会」等より整備促進の要望を受けています。

知事の意見:

「日高自動車道(一般国道235号)静内三石道路(静内～東静内)」事業を「継続」とした「対応方針(原案)」案について、異議はありません。

当該事業は、軽種馬及び農水産物の輸送をはじめとする物流の効率化、救急搬送時間の短縮、大規模地震・津波発生時の避難及び緊急車両の確保、日高・十勝を巡る周遊観光等の振興などに寄与することから、早期供用をお願いいたします。

なお、事業の実施に当たっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、徹底したコスト縮減を図り、効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・令和6年 6月 日高山脈襟裳十勝国立公園に指定
- ・令和7年度 日高自動車道 日高厚賀IC～新冠IC 開通予定

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和6年度に用地補償着手して、用地進捗率約1%、事業進捗率約3%となっている。

(令和7年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

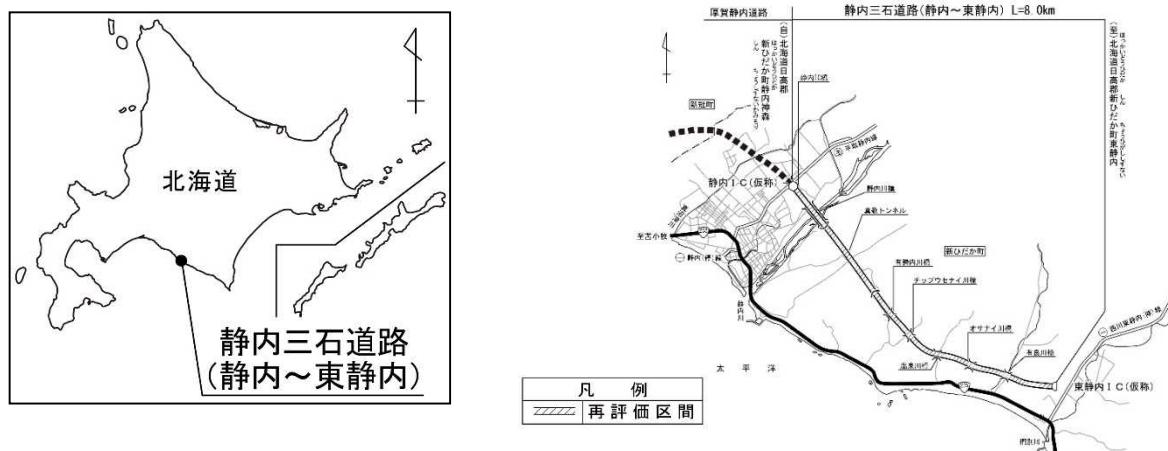
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)

※B/Cの値は、苫小牧東IC～浦河を対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。